

散策の会

2023年10月 例会報告 松戸から矢切の渡し

10月24日（火） 晴れ

- ★ 池袋駅から日暮里乗り換えで常磐線松戸駅まで約35分。東口からデッキ上を100mほど行くとイトーヨーカドーの2階の入り口である。エスカレーターで5階まで上がると出口があり、目の前が松戸中央公園である。つまりイトーヨーカドーは急な斜面の上に建っていることになる。金子さんのお子さんとお孫さんがイトーヨーカドーの先の高層マンションにお住まいだそうです。



松戸駅東口からデッキの上を歩く



イトーヨーカドー5階の出口



松戸中央公園

- ★ 公園を含む高台一帯には、鎌倉時代に北条氏の相模台城があったとされ、1919年（大正8年）には陸軍工兵学校が設置された。公園正門にはその正門門柱が残り、傍らに歩哨哨舎が保存されている。陸軍工兵学校は1945年（昭和20年）8月まで存続した。



松戸中央公園正門（陸軍工兵学校正門）



歩哨哨舎



公園前は裁判所・検察庁

- ★ 公園正門を出て坂道を下って行くと、駅前から続く戸定通りに出る。左折して300mほど行くと戸定が丘歴史公園である。歴史公園は戸定邸と庭園と戸定歴史館から成る。戸定邸は最後の水戸藩主・徳川昭武が1884年（明治17年）に建築したものである。昭武は最後の将軍・徳川慶喜の弟で、パリで行われた万国博覧会に使節団の団長として渡仏して、旅先で明治維新を迎えた。建物は度々増築され、現在は9棟が廊下で結ばれ、部屋数は23室に及ぶ。旧大名家の生活様式がよく分かる。主屋の南に広がる起伏のある芝生とその縁辺を彩る植樹、眼下に広がる江戸川と遥かに富士山を望む景観は、明治時代の西洋式庭園の特徴を備えていて、国名勝に指定されている。中国人女性の説明員の方が非常に丁寧に説明をしてくれた。歴史館には昭武ゆかりの品々や写真が展示してある。



戸定が丘歴史公園入口



説明員の話聞く



居間の床の間



庭園と主屋



座敷から庭園を見る



座敷から江戸川、富士山を望む

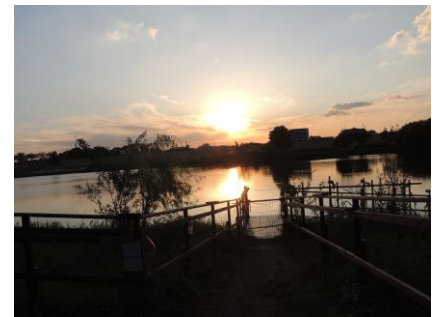
★ 戸定邸の門を出て、戸定みその坂を左へ降りて行く。常磐線の線路沿いに進み、やがて左へ緩くカーブして行くと線路の下を潜る地下道があり、そこを抜けると右手に浅間神社がある。浅間神社の前は国道 6 号・水戸街道と旧松戸街道などが交差する五差路になっており、近くには東京外環道のインターチェンジがあるため、歩行者用の道は非常に複雑で分かりにくい。雑草の生い茂った道やトンネルを抜けて、坂川に出てようやく自分たちのいる場所が確認できた。坂川に沿って南へ向かって歩く。坂川親水広場で右折し、千葉県立矢切特別支援学校の前で左折して更に南下する。周り是一片の葱畑である。時間は 4 時を過ぎて、陽は大分西に傾き、十日の月が東の空に登ってきた。サイクリングをしていたおじさんが、「これから行っても矢切の渡しはもう終わったんじゃないか。この辺はバスもないし、渡しがなければ松戸の駅まで歩かなきゃならないよ」という。ガイドを見たら、確かに営業時間は 16 時までとなっている。ともかく矢切の渡しに来てみると、時間は既に 4 時半で、渡しの入口にはロープが張ってあり、中に入れないようになっていた。



浅間神社



坂川沿いの長閑な遊歩道



黄昏迫る江戸川

★ 我々の気配を感じたのか、若い船頭さんが出てきたので、時間外だけど舟を出してくれないかと頼んだところ、気軽に引き受けてくれた。通常は渡船料 200 円、9 人で 1800 円のところ 3000 円を支払った。この船頭さんがなかなか面白い人で、ややぶっきらぼうな口調で周囲の風景や最近の柴又周辺の様子などを説明してくれた。夕闇迫る江戸川の流れは静かで、ボートの練習をする人が目の前を通り過ぎて行った。左岸の千葉県側は夕日を浴びて赤々と燃え、右岸の東京都柴又、金町周辺の高層ビル群はシルエットとなっていた。



矢切の渡し

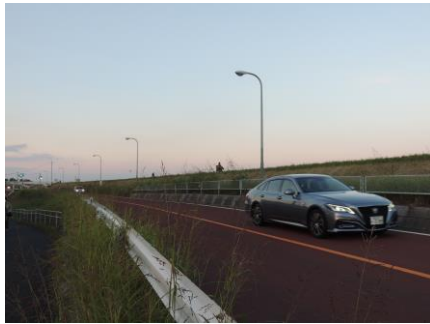


千葉県側 タヌキなどがいるという



東京側 金町・柴又周辺のビル

★ 矢切の渡しの柴又側の船着場に着いたのが4時45分頃。この日の日没が4時55分であるから、正に日没の直前である。土手を越えて300mほど行くと柴又帝釈天・題経寺の山門である。時間が遅いので参拝客はいない。参道の両側の商店も殆どが閉店して、静かな門前町風景である。



江戸川の土手



柴又帝釈天の参道

★ 柴又駅から京成高砂で乗り換えて日暮里へ、山手線で池袋駅に着いたのが午後6時頃であった。戸定邸の説明員が丁寧に説明してくれたのはいいが、そのため予想外に時間が掛って、矢切の渡しでは冷や汗をかいたが、日没前の江戸川からの景色は忘れがたく印象深いものであった。



今回は3人の俳人の方から俳句を頂きました。

秋暮れて 矢切の渡し 臨時便

寅さんが 寝そべる土手に 枯れすすき

秋風が 殿の旧邸 吹き抜けて 金子正男

抜け道に 泡立草が 生き生きと

冬夕日 矢切辛くも 渡りたり

冬ぬくし 寅さん片手 ポッケかな 桑田青三

最終の 矢切の渡し 秋夕焼け

飯桐の 赤き実たわわ 歴史館

肥沃なる 河川育てし 矢切葱 志賀 勉

参加者 馬道 哲、緒方 章、金子正男、桑田青三、小島恕雄、志賀 勉、
中島克三、水野 聡夫妻 以上9名

写真と文 小島恕雄